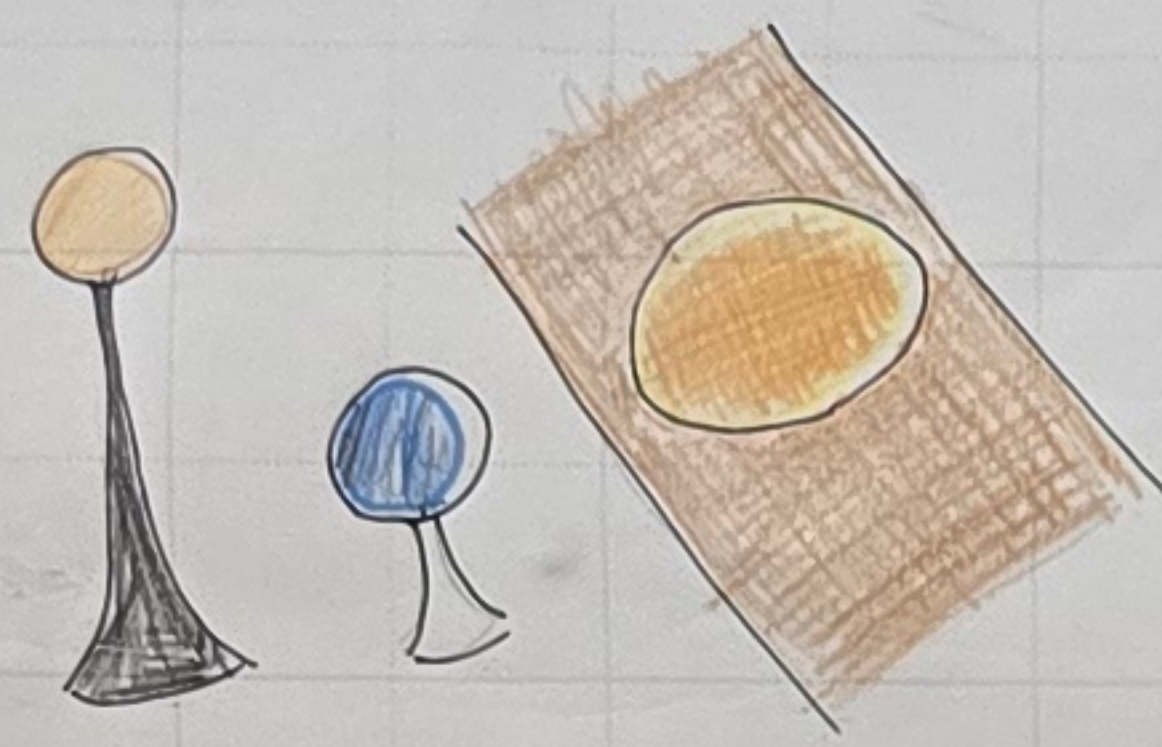
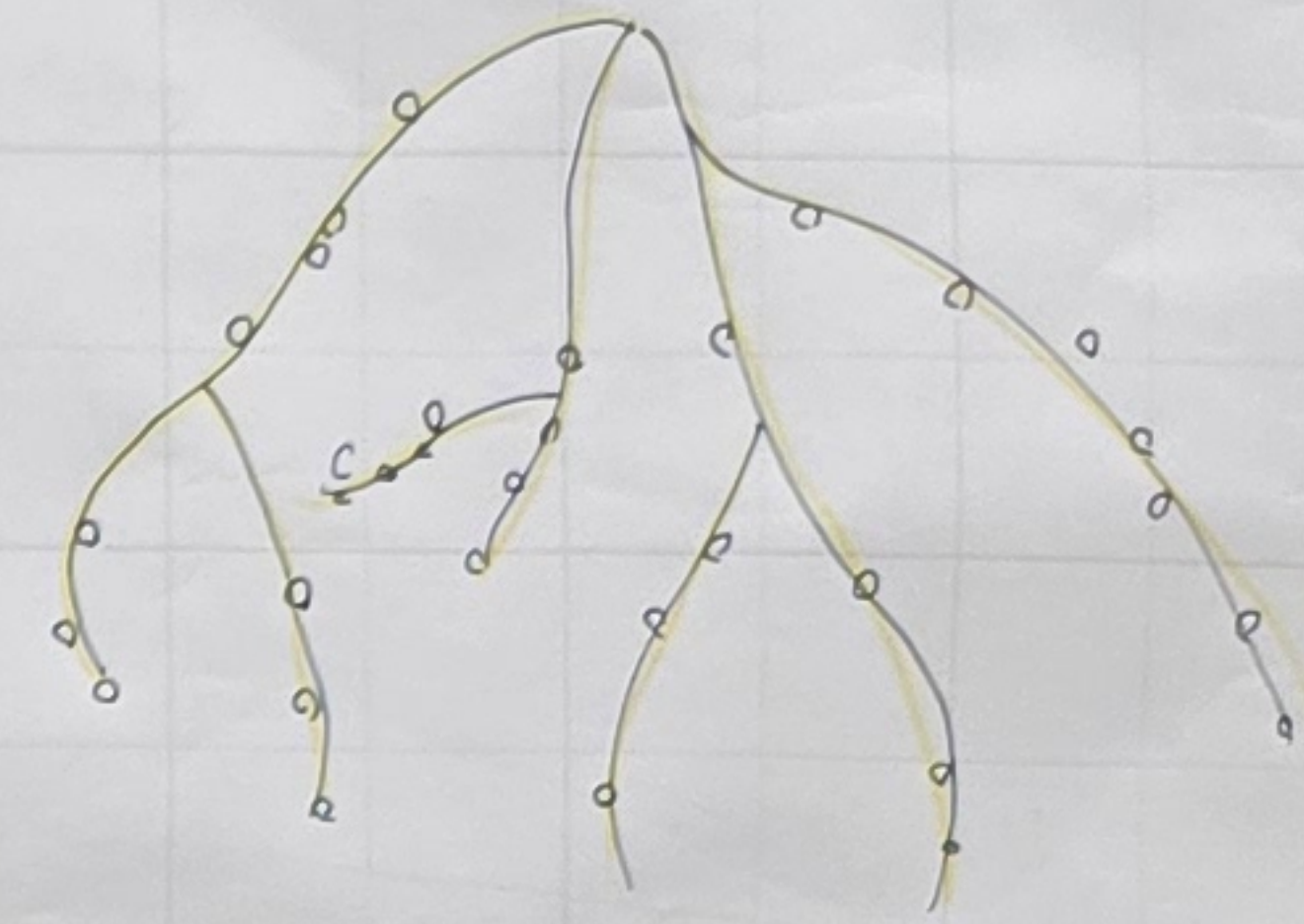




大発見!! 粘菌探検研究



葛西 安珠

この研究を始めた きっかけ

私がこの研究を始めたきっかけは、図書館で見つけた粘菌の本を見て、どういふものなのか、どういふ場所にいるのか、そもそも粘菌のしょうたいはなんなのか、たくさんの疑問がうまれてきたからです。

変形体ってなに？ 子実体ってなに？

粘菌は粘菌でも、変形体という形体と、子実体という形体があります。
変形体とは、ねばねばしたり動いたりする形体で、子実体とは、一定の位置にポツリという形体です。
さらに子実体は、キノコのように胞子をつくるという、大きな特徴もあります。
(たねのような細胞)

粘菌って？ ②菌じゃないの!!

粘菌とは菌ではない、小さな変化するアメーバ動物です。



未熟なの？成熟なの？

上で説明した子実体でも、変形体から変化したばかりの未熟と既に子実体としてできあがった形と色の成熟もいます。未熟な子実体の特徴として、まずうすい色で透明がかったような「ツヤツヤ」の見ためをしています。成熟な子実体は既に子実体としてできあがっているため、なかに胞子がつくられて、飛ばし粘菌の子孫をつくるという特徴をしているのです。

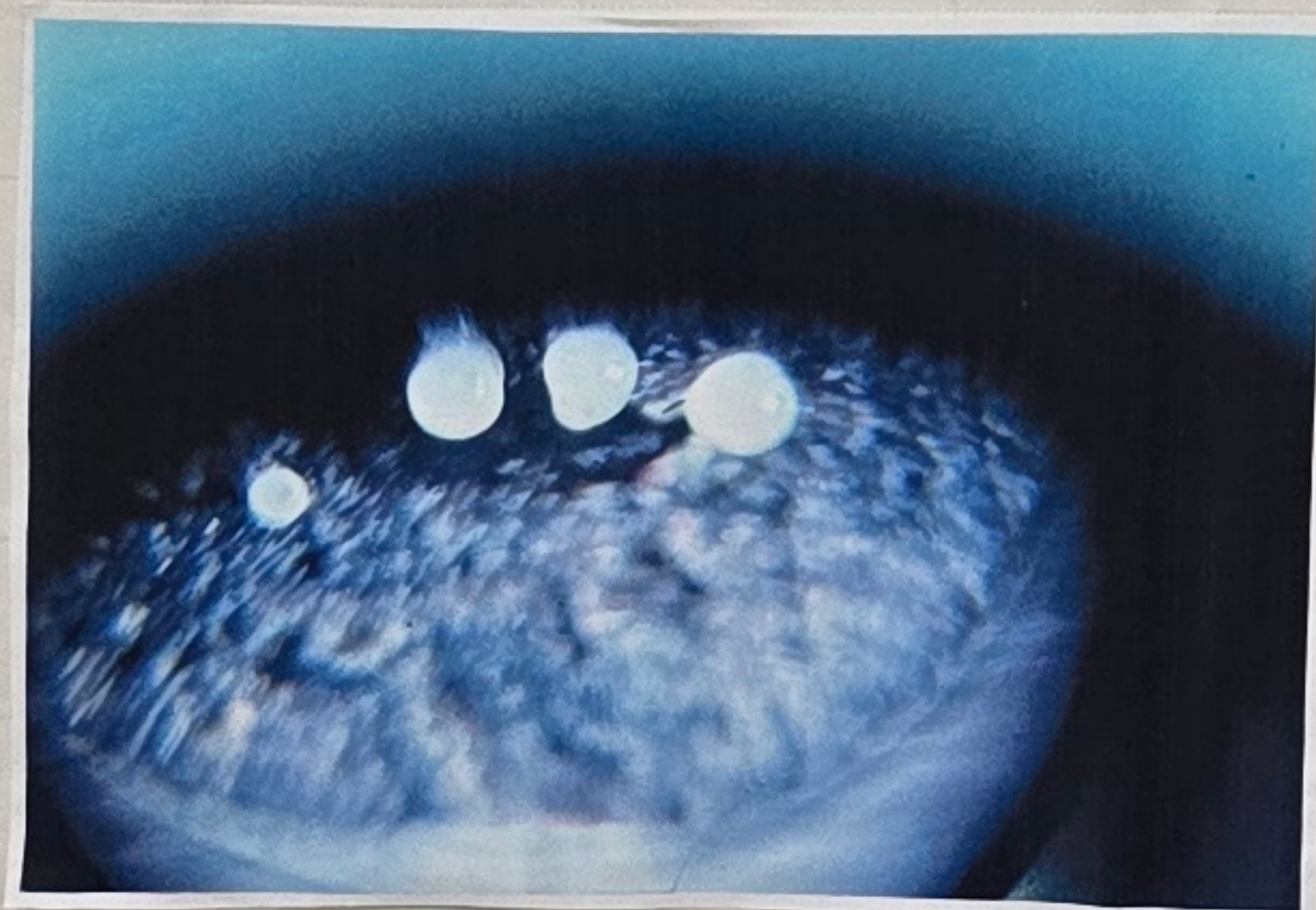
粘菌の観察

＜観察をする場所＞

私が読んだ本によると粘菌は主に倒木や木の枝枯葉の裏などによくいるそうです。私は倒木で見つけましたが子実体だと細かい所まで目をこらして見ないと見つかりません。(ルーペや顕微鏡などを使って)

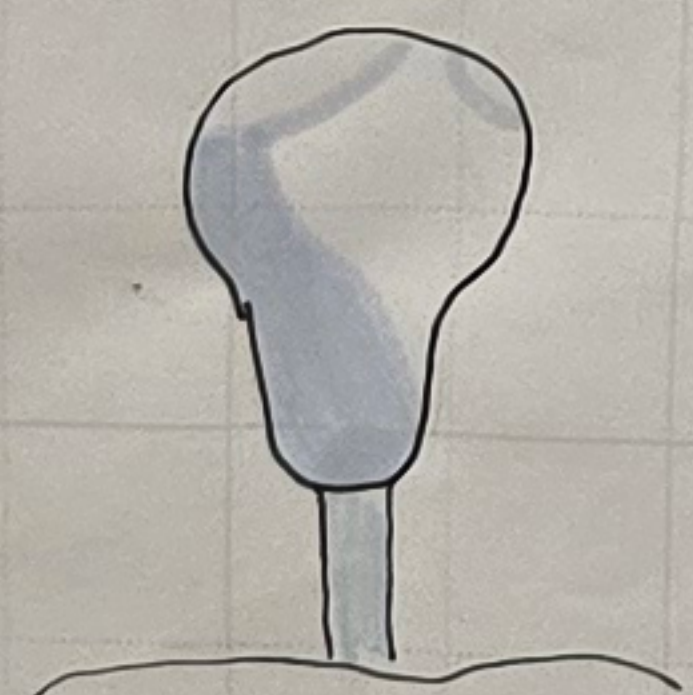
＜見つけた!! 子実体＞

私の家の前を探してみると、なんと倒木の上に子実体がありました!!



(8月12日(月))

よーくから見ると



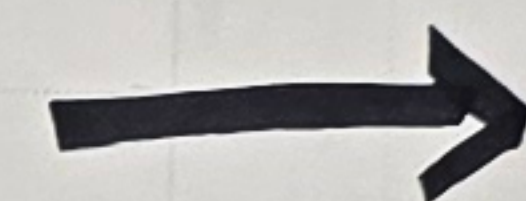
←これは「ヤリカミノケホコリ」の未熟体だと思います。理由は軸が細く黒かったのでもう胞子が飛びそう! 腐った木の上で見つけました。大きさは約2mmで軸の根本が少し太かったです。ツヤツヤしてました。自分が名前を付けるとしたら「ツヤカミノケホコリ」にします。

＜成長した!! ヤリカミノケホコリは似た子実体＞

図A

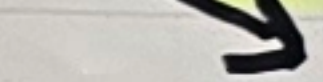


軸が黒い。
ツヤツヤしてる。



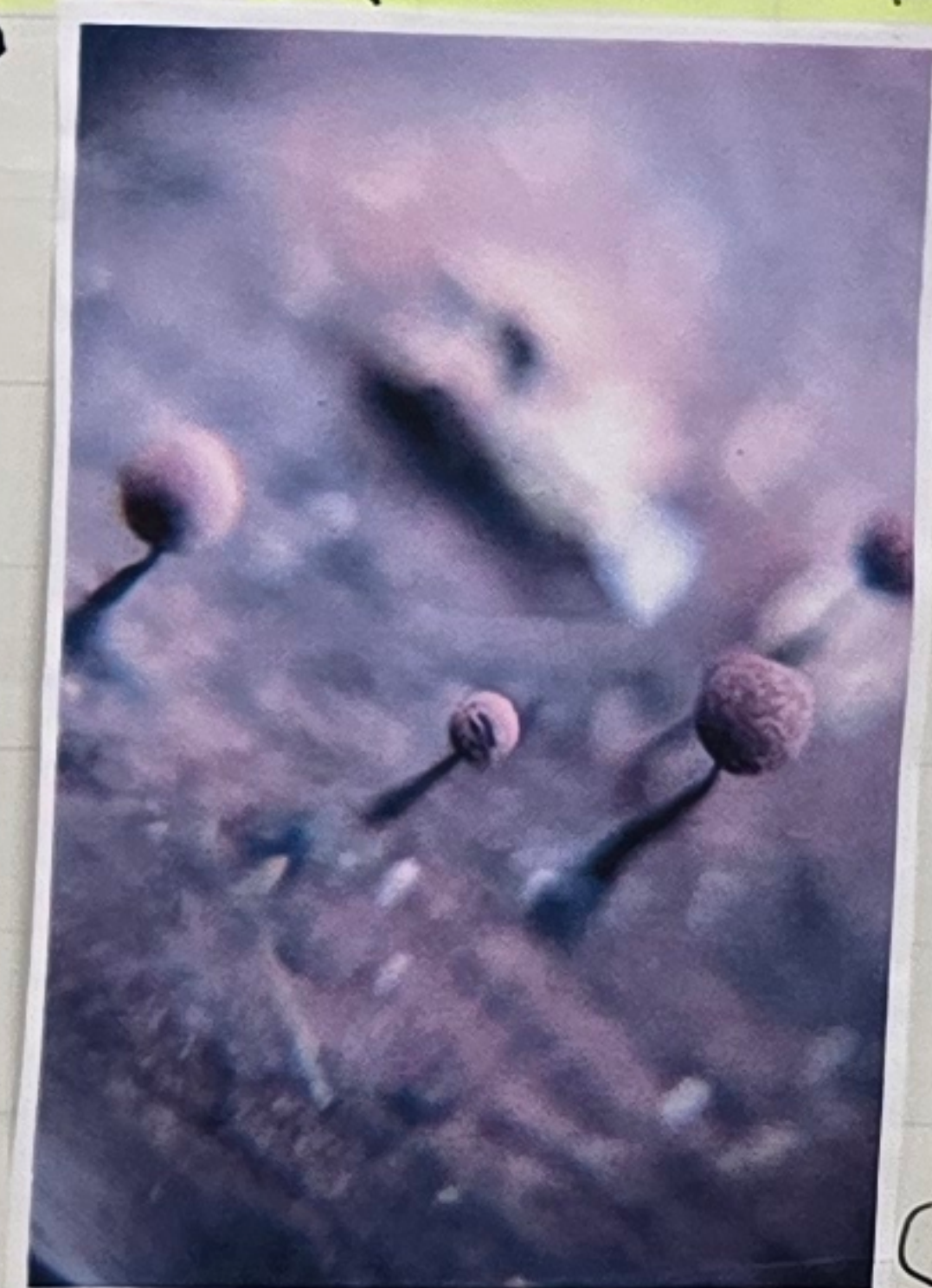
(8月18日(日))

未熟から成熟になる間。周りに虫がいる。



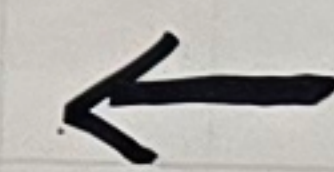
(8月20日(火))

軸が長くなっ! た!
もう胞子が飛びそう!



(8月19日(月))

成熟になったばかり、まだ軸が短い。



や、と胞子が飛んで、
子実体の役めを終えた!
(8月23日(金))

上の写真を見ると、子実体の成長(変形すがた)がわかります。

< 粘菌の見つけ方 >

私が粘菌を探するとき、3つのポイントを踏まえて見つけました。それは「し。けがある」「直射日光が当たらない」「枯葉のうらやくさ。た木の上」ということです。なぜ直射日光が当たらない場所にいるかというと粘菌は光がきらいだからなのだそうです。そこで私は春採湖に行きました。なぜかというところと湖があるため、し。けが多いからです。具体的に春採湖のどこを探したのかというとトンボ池の周りにあるくさ。た木の上やうらを見ました。他には道におちている落ち葉のうらも探しました。みなさんもこれを参考に探してみませんか？

< まとめ >

私はこの研究を通して粘菌とは菌ではなく、アメーバ動物だということや、ただ一定の位置にいるのではなく、変形体から子実体、子実体の未熟から成熟になり、胞子を飛ばして子孫をつくるというじゃんかんして生きているのだということがわかりました。さらに粘菌は木や葉で増えたバクテリアを食べるため、木や葉がくさる時間をゆるやかにして森林の環境を守る役わりを果たしていることも知りしました。粘菌という存在はまわりの自然環境と助け合いながら生きているということです。

< 感想 >

私は、この研究をしてみても粘菌の役わりと美しさを知れてうれしかったです。ただ粘菌のことを知るだけでなく、自分で探して調べることで粘菌のことをもっとよりよく細かいところも知ることができるのだとわかりました。これから私は身近で小さな粘菌のことを思いだして好きな種類を見つけてみたいです。

→ 好きな写真



クダホコリ



ルリホコリ

< 参考にした本 >

下の本は釧路中央図書館で貸りれます!!

森のふしぎな生きもの変形菌ずかん (川上新一 著、伊沢正名 写真)

きれいでふしぎな粘菌 (新井文彦 著、川上新一 監修)

美しい変形菌 (高野文 写真)

変形菌ミクソヴァース (増井真那 写真)



モイロツノホコリ



キヨタマツノホコリ